

社会資本整備審議会道路分科会 第1回東北・関東地方合同小委員会  
【議事概要】

1. 日 時

平成25年6月4日（火）13：30～15：00

2. 場 所

AER（アエル）21F A-1会議室

3. 出席者

〈委員長〉

大滝 精一 東北大学大学院 経済学研究科長 経済学部長・教授

〈東北委員〉

大泉 太由子 （公財）東北活性化研究センター  
調査研究部 専任部長兼主席研究員

大沼 賀世 （公財）致道博物館 非常勤学芸員

加賀谷 聡一 酒田商工会議所青年部 会員

福迫 昌之 東日本国際大学 経済情報学部長 教授

〈関東委員〉

小濱 哲 横浜商科大学 貿易・観光学科 教授

牧野 昌子 特定非営利活動法人

ちば市民活動・市民事業サポートクラブ 代表理事

4. 議事内容

○審議結果

- ・ 一般国道6号茨城県北茨城市～福島県いわき市間（勿来バイパス）計画段階評価について、委員からの意見を事務局で検討の上、意見聴取を進めることを了承する。

○主な意見

- ・ 政策目標の設定において、福島県の総合計画を記載しているが新しい総合計画が策定されているため確認すること。
- ・ 北茨城市といわき市間の流動について、いわき市南部と北茨城市との結びつきが強い。
- ・ 震災後は渋滞が酷くなってくる等、全体的に道路整備を進める必要があると考える。

- ・ 震災時は南方面への渋滞が酷く、被災箇所（いわき市）に戻らざるを得ない状況であった。特に南方面への流動が大事なので、双葉郡などいわき市北部（広野など）のニーズも聴取して欲しい。
- ・ 意見聴取における対象企業の中に、医療や観光（海水浴場等）の分野を入れて欲しい。
- ・ アンケート期間が2週間より長ければもっと意見を聴取することが出来ると思う。
- ・ アンケートの周知において、県報や市報など利用すべき。
- ・ 観光は広域であり、茨城県、福島県の2県だと把握しきれないこともある。水戸市や福島市、場合によっては、大手の旅行代理店にも聞いた方がよい。
- ・ 県境の流動では通学も多いため、学校関係者からも意見聴取してはどうか。
- ・ 震災後、勿来や小名浜の海水浴客が減少し、北茨城市や高萩市の海水浴場へ行っているようなので、海水浴客の動きにも着目すれば広域流動がつかめる。
- ・ アンケートの内容に、北茨城市大津町からいわき市勿来地区間と限定的な記載をしているが、国道6号（北茨城市大津町からいわき市勿来地区間）など、もっと国道6号という広域的な課題の捉え方をすべきではないか。
- ・ 不測の事態が発生した時に避難できる、国道6号が繋がることで安心できるなどの観点を記載すべきではないか。
- ・ アンケートの質問3に、「災害時の輸送に不安がある」など震災時に浮き彫りになった課題を入れてはどうか。
- ・ アンケートの質問4に、「どちらかと言うと必要だと思う」が入ってるため、バランスを取るため「どちらかと言うと必要だと思わない」を入れるべき。